

令和2年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した
障害者スポーツの実施環境の整備事業）成果報告書

令和3年4月
(川崎市)

本報告書は、スポーツ庁委託事業として、川崎市が実施した「令和2年度障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

事業実績について

取組の 名称	障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）
目的	<p>本市においては、1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、パラリンピックに重点を置いた「かわさきパラムーブメント」を掲げており、障害者スポーツの推進に取り組んでいる。</p> <p>障害者の継続的なスポーツの実施促進には、身近な場所でスポーツを実施できる機会の創出や、スポーツに関わる人の障害理解が必要である。そのため、学校や地域団体と協力し、障害者とスポーツをつなぐ人材育成の支援や、障害者スポーツ団体と連携したユニバーサルスポーツの大会の運営を通じた「支える体制」の強化により、障害者スポーツの実施環境の整備を図ることを目的とする。</p>
取組 内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業の取組 2. 実行委員会の開催 3. 総括
成果と 課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業の取組 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害理解啓発コンテンツの水平展開 <p>5年間の取組成果である障害理解啓発コンテンツを市内に水平展開するため、対象に応じて内容を精査・再構築し、その実施過程や効果を検証した。</p> <p>ア スポーツを通じた障害理解啓発プログラム</p> <p>(ア) 目的</p> <p>絵本を活用し、障害に対する偏見・差別の意識軽減を図るなど、スポーツを通じ、多様性を尊重した社会の実現を目指す。</p> <p>a 絵本活用研修</p> <p>(a) 実施内容</p> <p>市内小学校等の教諭を対象に、共生共育の充実にに向けた講義を行い、絵本を活用した「オープンエア」の考え方を通して、授業実践の模擬体験と解説講話を行った。</p> <p>また、班毎にコロナ禍における共生共育への取組や工夫について討論を行った。</p> <p>実施回数：1回 参加者：17名</p> <p>(b) 成果・課題</p> <p>アンケート結果から、受講することで、「障害理解が深まった」「障害についての見方や考え方が変わった」「学校に持ち帰り、共有したい」等、前向きな回答が多く得られた。個人のレベルアップだけでなく、学校で共有したいという声があげられた。</p> <p>研修後、受講した先生方が、各学校の教育活動において、別途、研修を実施したい等の要望もあり、障害に対する理解が広がったと考えることができる。</p> <p>今後の課題として、さらなる推進のためには、継続して啓発を図ることが必要である。来年度も、福祉教育の研究協力校情報交換会などで教職員向けの研修を行い、教職員の理解</p>

を深めていきたい。各学校や市内で絵本が活用され、多様性を尊重した社会の実現を目指すことができるよう継続して取り組んでいくことが大切である。

b 図書担当連絡会

(a) 実施内容

市内小学校・特別支援学校、中学校図書担当者連絡会にて、絵本「ワクワクのつくりかた」の紹介や読み聞かせのポイントについて、解説を行った。

実施回数： 2回

参加者：221名



[解説を聴講する参加者]

c 紙芝居の作成・配布

(a) 実施内容

障害に対する偏見・差別の意識軽減を図るなど、多様性を尊重した社会の実現を図るため、絵本より多くの対象者や広範囲なスペースで読み聞かせできる紙芝居を作成し、配布することで、広く効果を展開した。

作成数：150部

配付先：市内小学校・特別支援学校、市立図書館、社会福祉協議会等



[新たに作成した紙芝居]

(b) 課題

更なる市内への普及を図る必要がある。そのため、紙芝居が配布先でどのように活用されているか情報共有を行い市民へ障害理解を広げていく。

イ オープンエアメーカー（障害理解サポーター）養成講習会

（ア）市社会福祉協議会講習会

障害理解啓発のための講習会プログラムについて、目的や手法を理解し、地域の人材発掘養成に活用していくことを目的に社会福祉協議会職員やボランティア相談員、ボランティア運営委員等を実施する。

（a）実施内容

地域包括ケアシステムの推進に欠かせない相互理解について、スポーツを通じた障害者の理解をテーマに講習を開催した。地域にオープンエアメーカー（障害理解サポーター）を増やすことを展望に捉えながら、障害理解の啓発を図るための解説を行った。

実施回数：1回

参加者：9名

（b）成果・今後の取組〔別紙1参照〕

アンケート結果より、受講者から意識の変化や、今後の業務へ活かしていきたいといった前向きな意見をいただくことができ、社会福祉協議会職員等に対しオープンエアメーカーの考え方を広げ、意識啓発を図ることにより、地域にオープンエアメーカー（障害理解サポーター）を増やすことに繋がった。

今後の取り組みとして、地域にオープンエアメーカー（障害理解サポーター）の人材を増やし、さらに各区で障害理解の啓発を図るため、ボランティア活動の振興を行っている各区社会福祉協議会で講習会を実施する。



[熱心に聴講する参加者]

（2）地域等と連携した障害者スポーツイベント等の実施

ア 実施項目

（ア）地域等と連携した障害者スポーツイベント

a オンラインイベントの開催

（a）目的

新型コロナウイルスの感染拡大に鑑み、地域スポーツの主な担い手である総合型スポーツクラブが、障害者スポーツをオンラインで企画、実施し、障害者がスポーツをする機会や障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを通じて楽しみながら障害に対する理解を高めることのできる機会を提供し、今後社会で求められるオンラインでの障害者スポーツイベント開催のノウハウを習得する。

（b）実施内容

地域等と連携した障害者スポーツオンラインイベント

委 託 先：川崎市総合型スポーツクラブネットワーク

2021年1月1日(日)まで公開中!

—— ひとしほ、おうちや とうえんで たのしもう~! ——

やってみよう!

〈各動画をワンクリックすると、動画プレイヤーで視聴できます〉

したのしゃしんをえらんでクリック!



【手作りおたけ】



【手作りアキド】



【手作りアキド】



【手作りバドミントン】



【手作りスナックゴルフ】



[オンライン配信動画サイト]

b 川崎市長杯ボッチャ大会

(a) 目的

市内において、地域や団体と連携して障害理解啓発を目的としたイベントを実施し、障害者がスポーツをする機会を創出するとともに、障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを通じて、楽しみながら障害に対する理解を高めることのできる機会を提供する。

(b) 実施内容

第1回川崎市長杯ボッチャ大会

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止

委託先：公益財団法人川崎市身体障害者協会

(川崎市障害者スポーツ協会)

[予定時期] 令和3年1月23日(土)

[予定場所] カルツかわさき 大体育室

(c) 効果・検証

①実績

[応募者数] 147名(選手のみ)

レクの部(誰でも参加)の応募チームが、募集チーム数の24チームを上回り32チームの応募があった。応募チームの抽選を行い、参加チームを決定した。

障害のある方のみ参加できる競技の部についても応募チーム数

を上回る17チームの応募があった。

8歳から78歳まで幅広い年代の方に応募いただいた。

②検証

幅広い世代からの参加や、応募チーム数を上回る申し込みから、障害のあるなしに関わらず誰もが参加できる大会開催のニーズがあることが分かった。

今後についても市内へのボッチャ普及の取組を進めていく。



[市長杯ボッチャ大会のチラシ]

2. 実行委員会の開催

(1) 概要

有識者、スポーツ協会、特別支援学校、スポーツ推進委員、身体障害者協会、障がい者スポーツ指導者協議会、社会福祉協議会、総合型地域スポーツクラブ等の代表者及び行政関係部署により構成する実行委員会を2回（7月、3月）開催した。

その中で、障害理解啓発プログラムの水平展開に関わる手法や、総合型地域スポーツクラブ等と連携した障害者スポーツイベント等について協議・検討するとともに、実施の方向性について決定を行った。

ア 第1回実行委員会

開催日：令和2年7月31日

成果：・スポーツを通じた障害理解啓発プログラムについて紙芝居を作成するにあたり、読み手側が自由な表現ができるような工夫等のご意見をいただいた。

・オープンエアーメーカー養成講習会についてDVDを活用した研修の開催手法や対象等の今後の展開についてのご意見をいただいた。

・地域等と連携した障害者スポーツイベントについて新型コロナウイルスの感染拡大により、イベントをオンラインで開催する等の開催方法の変更や今後の方向性について、ご意見をいただいた。

イ 第2回実行委員会（書面開催）

議題：・令和2年度「障害者スポーツ推進プロジェクト」委託事業完了報告に伴う業務実績報告書（案）について

・令和3年度の取組（案）について

3. 総括

本年度は、障害理解啓発コンテンツの水平展開として、市内小学校等教諭を対象に、共生共育の充実に向けた講義を行い、絵本を活用した授業実践の模擬体験と解説講話を行った。また、絵本より多くの対象者や広範囲なスペースで読み聞かせできる紙芝居を作成し、市内小学校・特別支援学校に配布した。さらに、障害理解啓発のための講習会プログラムについて、目的や手法を理解した地域の人材発掘養成に活用していくことを目的に社会福祉協議会職員やボランティア相談員等を実施した。このように広く効果を展開し、障害に対する偏見・差別の意識軽減を図った。

地域等と連携した障害者スポーツイベント等については、新型コロナウイルスの感染拡大に鑑み、特別支援学校の教師が障害者スポーツ体験できるメニューを手作りで作成し、在宅で楽しむ方法を動画で解説した。在宅時間が増加する中、自宅で障害者スポーツを楽しむ場や機会を創出することができた。また、市長杯ボッチャ大会は、緊急事態宣言により、中止したが、幅広い世代からの参加や、応募チーム数を上回る申込があり、障害のあるなしに関わらず誰もが参加できる大会開催のニーズがあることが分かった。

今後も、スポーツを通じて、多様性を尊重した、さらなる社会の実現に取り組んでいきたい。

実施日程表(実績)

実施時期	実施事項				備考
	実行委員会	スポーツを通じた啓発プログラム	オープンエアメーカー講習会	障害者スポーツイベント等	
4月					
5月					
6月					
7月	第1回 7/31				
8月					
9月					
10月					
11月		絵本活用 研修 11/17 図書担当 連絡会 (11/25、 11/30)	紙芝居 製作契約 内容調整 納品	オンラインイ ベント公開 11/25	
12月					
1月			講習会 1/29	ボッチャ大会 1/23 (中止)	
2月					
3月	第2回 (書面)				

※ 実施事項は、委託事業完了(廃止等)報告書の記載内容との整合性に留意し記載してください。

障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会名簿

所属	役職	氏名
【学識者】		
田園調布学園大学	准教授	かのう ひでとし 和 秀俊
【関係団体】		
市スポーツ推進委員連絡協議会	会長	うらの かずよし 浦野 一吉
市立特別支援学校	校長	ますだ とおる 増田 亨
川崎市障害者スポーツ協会（公益財団法人川崎市身体障害者協会）	事務局長	よこしま まさし 横島 正志
公益財団法人川崎市スポーツ協会	事務局長	たんの のりかず 丹野 典和
川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター	所長	つかだ はるとか 塚田 治孝
川崎市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	会長	まくち ただし 菊地 正
川崎市障がい者スポーツ指導者協議会	会長	いしだ こ 石田 さち子
特定非営利活動法人チャレンジドサポート プロジェクト	理事長	きたむら すずむ 北村 奨
特定非営利活動法人高津総合型スポーツクラブSELF		とぬま ともたか 戸沼 智貴
【川崎市市内連携部署】		
川崎市市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室	担当課長	なるさわ しげゆき 成沢 重幸
川崎市健康福祉局障害保健福祉部障害福祉課	課長	すながわ やすひろ 砂川 康弘
川崎市教育委員会事務局教育政策室（政策推進）	担当課長	そえの まさみ 添野 雅美
川崎市教育委員会事務局学校教育部健康教育課	課長	ひがき けんじ 日笠 健二
川崎市教育委員会事務局学校教育部指導課	担当課長	たかやま みきよ 高山 深紀世
【事務局】		
川崎市市民文化局市民スポーツ室	室長	やまね たかゆき 山根 隆之
川崎市市民文化局市民スポーツ室〔スポーツ事業推進担当〕	担当課長	うえの すずむ 上野 進
川崎市市民文化局市民スポーツ室〔障害者スポーツ担当〕	課長補佐	おぐら けんいちろう 小倉 健一郎
川崎市市民文化局市民スポーツ室〔障害者スポーツ担当〕	事務職員	さいとう れおな 齋藤 玲於奈

オープンエアメーカー（障害理解サポーター）養成講習会 アンケート結果まとめ

参加者数： 9名

アンケート回収数： 9件

1 今回の研修について、5段階の中で当てはまるものに○を付けてください。
評価が「3・2・1」の方は理由を記載願います。

ア	<input type="checkbox"/> 5 : 4件	<input type="checkbox"/> 4 : 4件	<input type="checkbox"/> 3 : 1件	<input type="checkbox"/> 2 : 0件	<input type="checkbox"/> 1 : 0件
イ	<input type="checkbox"/> 5 : 5件	<input type="checkbox"/> 4 : 4件	<input type="checkbox"/> 3 : 0件	<input type="checkbox"/> 2 : 0件	<input type="checkbox"/> 1 : 0件
ウ	<input type="checkbox"/> 5 : 4件	<input type="checkbox"/> 4 : 5件	<input type="checkbox"/> 3 : 0件	<input type="checkbox"/> 2 : 0件	<input type="checkbox"/> 1 : 0件
エ	<input type="checkbox"/> 5 : 5件	<input type="checkbox"/> 4 : 9件	<input type="checkbox"/> 3 : 0件	<input type="checkbox"/> 2 : 0件	<input type="checkbox"/> 1 : 0件

2 今回の研修の感想・良かった点、改善すべき点等ありましたらご記入ください。

- 障害者ですか、健常者ですかとの問いに考えさせられました。障害は線引きができないグラデーションである、未来誰しも障害者になる可能性があるということを知り、そうだなあと思いました。
- 障がい者の理解、最初に聞く話としては、自分も障がいがあると思える（一般の方々にとっては）入りやすいし、理解しやすかったです。オープンエアメーカー養成講座として障がいの理解を深めていってほしいです。
- 話し方が良かった（リズムとかワード）ので分かりやすかったです。
- 講師の話も分かりやすく良かったです。「知らないことが障がい」等、話を聞いて気づいたことが多かったです。
- 何か（うまく言えませんが）足りないというか聞きやすいし、分かりやすいと思いますが。
- 障害という言葉はよく耳にするので、分かっているつもりでいたが、改めて聞かれると分からないこともあり、これまでしっかり理解できていなかったと実感した。

3 今回の研修について、今後地域での展開を図っていくうえで、ご意見等ありましたらご記入ください。

- スポーツも大切ですが、人格形成が基本であると思います。
- 今後何か講座が出来ないかを検討してみたいと思います。ありがとうございました。





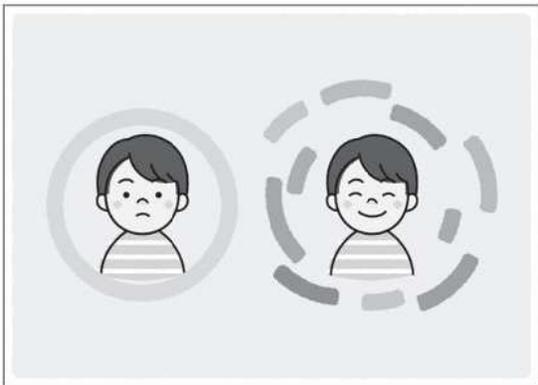
②

こんにちは！ ぼくの なまえは そら。
ワクワクすることが だいすきなんだ！
みんなは ワクワクすることが すき？
ワクワクすることが すきなひとは みんな
「オープンエアメーカー」に なれるんだよ。
もちろん ぼくも
いまは オープンエアメーカー なんだ！

◆読み手の皆さんへ

主人公の「そら」くんが登場。丸いワクに囲まれています。





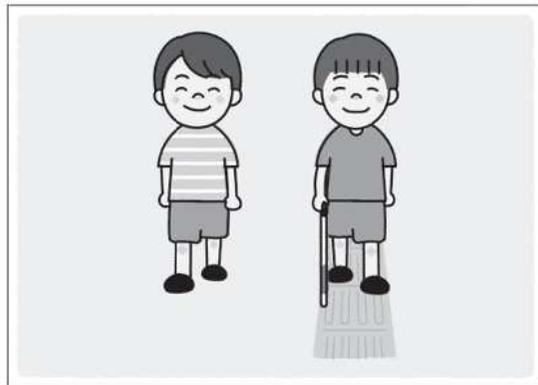
③

オープンエアーって なんだらう？
ぼくも はじめは ぜんぜん しらなかつた。
オープンエアーって いうのはね
ワクを なくして ワクワクを
つくれるひと のことなんだ。
「ワクワク」は わかるよね。たのしくて
みんなが えがおに なること。
じゃあ「ワク」って なあに？
「ワクを なくす」って ユウウウウウウ..
うっしょに かんがえてみよう。

◆読み手の皆さんへ

右のそらくんは、ワクがなくなっていくイメージを表現しています。





④

ぼくが まだ

オープンエアーメーカーじゃなかったときはなしをするね。

ぼくの ともだちの ひろくんは

めが みえない。

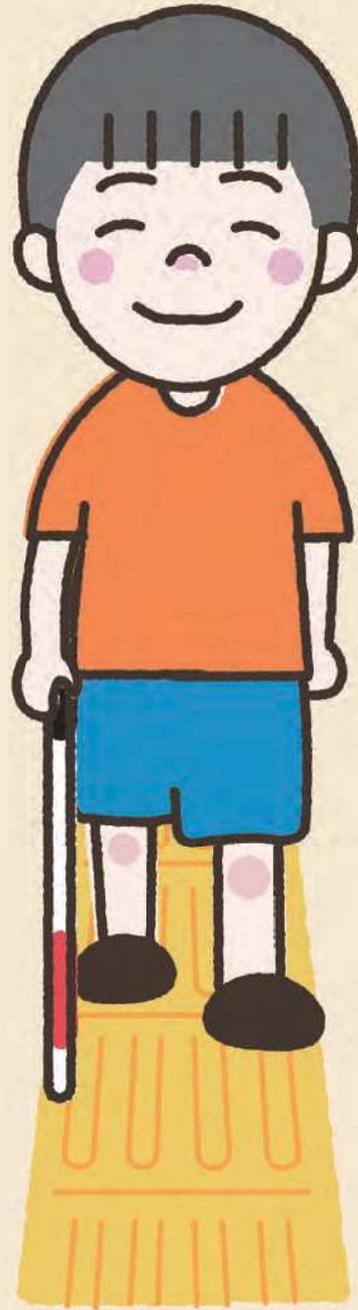
ぼくは

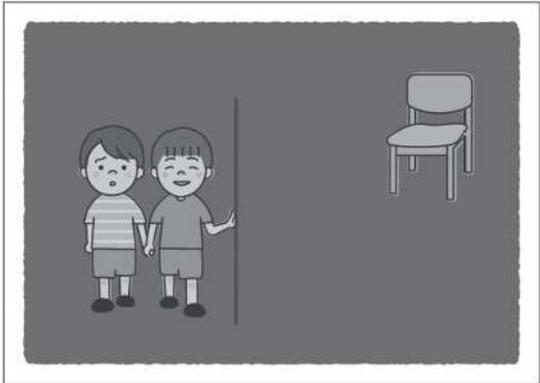
「ひろくん たいへんだなあ。

あるくのが こわいだろうなあ」って
おもってたんだ。

◆読み手の皆さんへ

友達の「ひろ」くんが登場。目が見えないという障害があります。



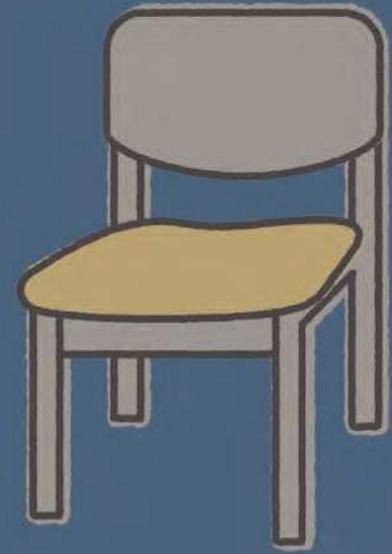


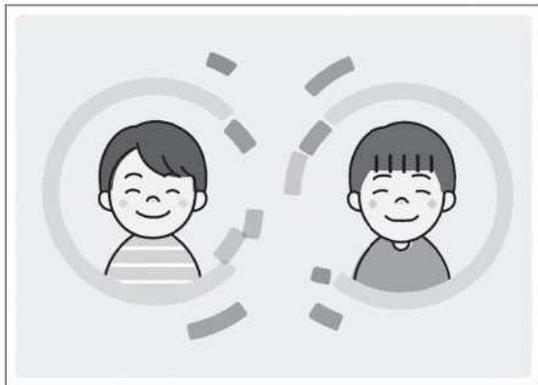
⑤

あるとき うちの なかで
あそんでいたら ていでんになった。
まっくらになって ぼくは びっくり。
おもわず「ごわいよ！ ひろくん どう？」
って いっちゃった。
ひろくんは 「じいだよ」って うって
ぼくと てを つないでくれた。
ひろくんは いつもと あんまり
かわらないから こまらなかつた。
てでへやを さわって あるいて
「だうじやひらだよ。うすい、あわらう」って
うすの あるよころを おしえてくれたんだ。

◆読み手の皆さんへ

まっくらな状態でも落ち着いているひろくと、不安になっているそらくん。その違いを伝えています。





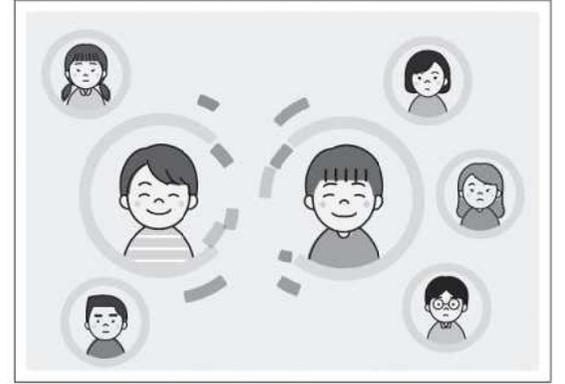
⑥

めが みえる ぼく。
みえない ひろくん。
どっちにも できること
できないことが あるんだね。
だから ひとりでは むずかしいことも
いっしょに やれば できるんだ。
もっと たくさん ワクワクできるって
いうことなんだね。

◆読み手の皆さんへ

ワクのある友達、ワクがなくなっていく友達。その違いを見せるページです。





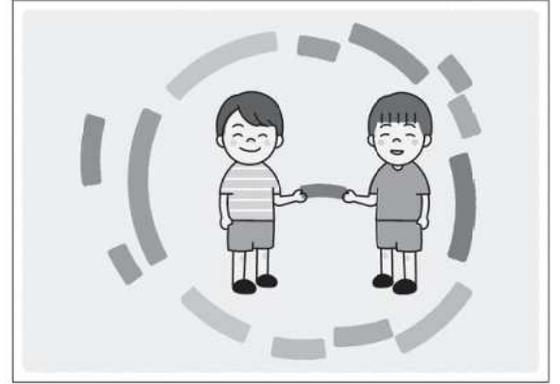
⑦

そのことを しらないと
まるで ワクが あるみたいに
ひとりひとは はなれた まんまだね。
みんな できないことは そのまんま。
きみの できないことも そのまんまなんだ。

◆読み手の皆さんへ

ワクのある友達、ワクがなくなっていく友達。その違いを見せるページです。



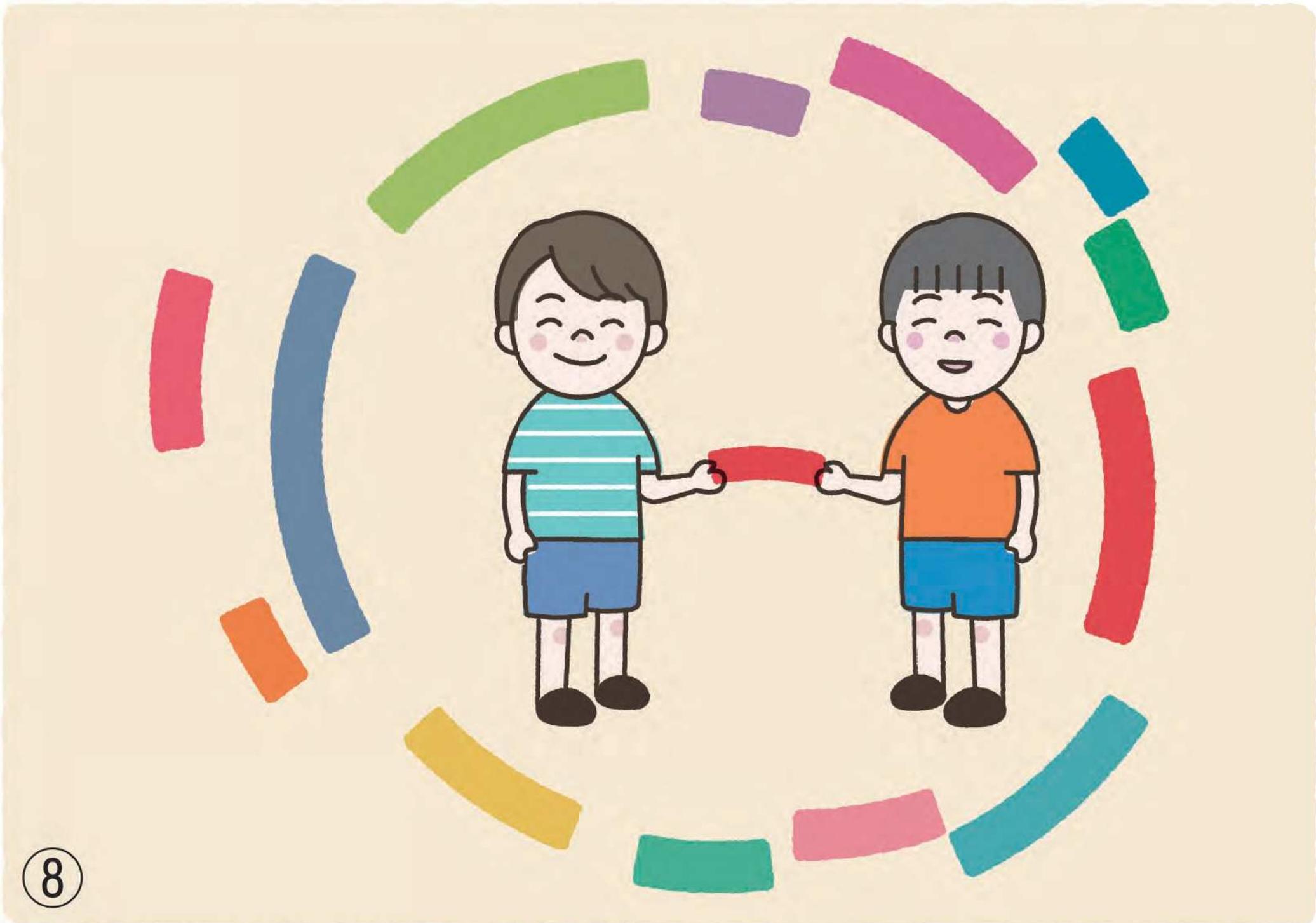


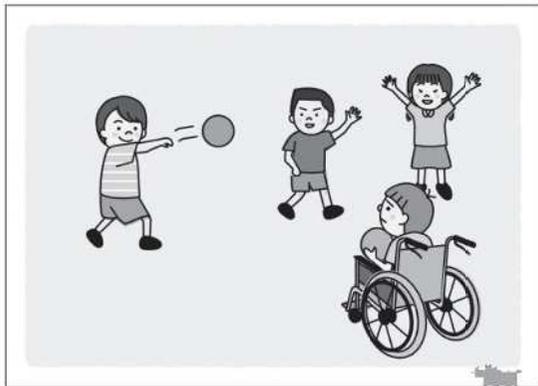
8

あいての ことを もっと すれば
「しらない」 かっていう ワクが なくなつて
みんなで もっと ワクワクできるよね。
「しらない」 かって ぶんぶん。
それが 「ワク」。
ワクを なくして ワクワクする。
それが
オープンエアーメーカーに なるかっていう
ことなんだ。

◆読み手の皆さんへ

そらくんとひろくんが持っているのは、ワクのかけら。ワクをひとつずつはずして、ワクワクしていく二人の様子を表現しています。



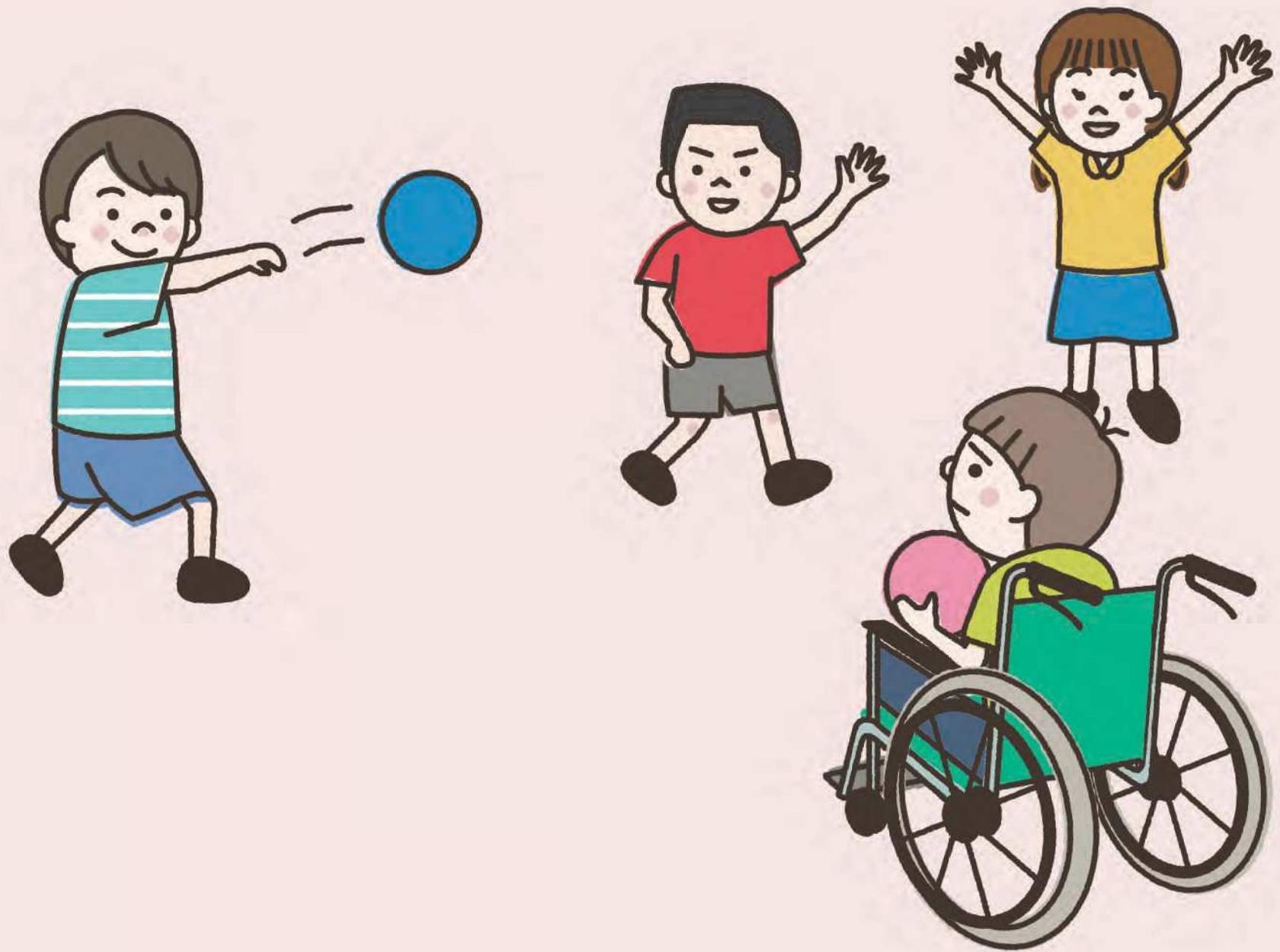


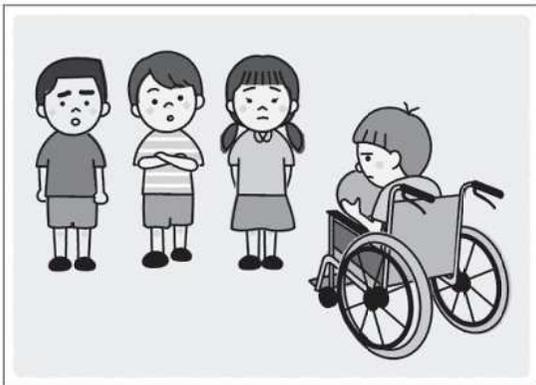
9

もうひとり ぼくの ともだちの
はなしを するね。
ぼくは あたらしい ともだちの
りくくんを さそって
みんなと いっしょに
あそぶこと していたんだ。
「ボールなげを しよう」って
ぼくは いった。
でも りくくんは
ボールを うまく なげられない。

◆読み手の皆さんへ

別の友達「りく」くん登場。りくくんの背中からのアングルで、りくくん側の目線になって考えるようにする狙いがあります。





10

ぼくはりくくんがかわいそつじ
なっただけ

「できないならしかたないよ。

そつでまっくてね」っていったんだ。

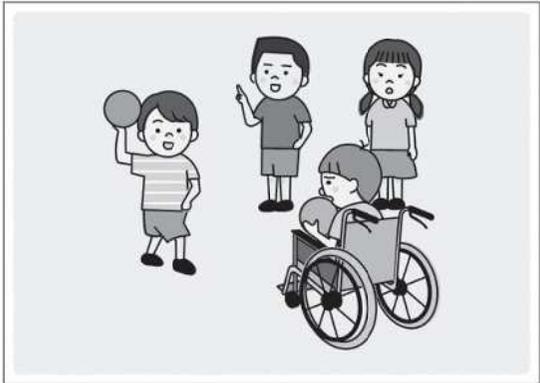
そつしたらりくくんはしょんぼり。

ぼくもみんなもなんだかたのしくない。

◆読み手の皆さんへ

りくくんの背中からのアングルで、りくくん側の目線になって考えるようにする狙いがあります。





11

やっほりっしょに あそびたいよね。

だから ほくは りんくんに

「ほりっしょって なげるとだね」って

りっしょけんめい おしえたんだ。

でも りんくんは うっせも しまっせぬ。

「ほくはね こが あがらないから

なげられないんだ」

ほくも みんなも びっせり。

ぜんぜん しらなかつた。

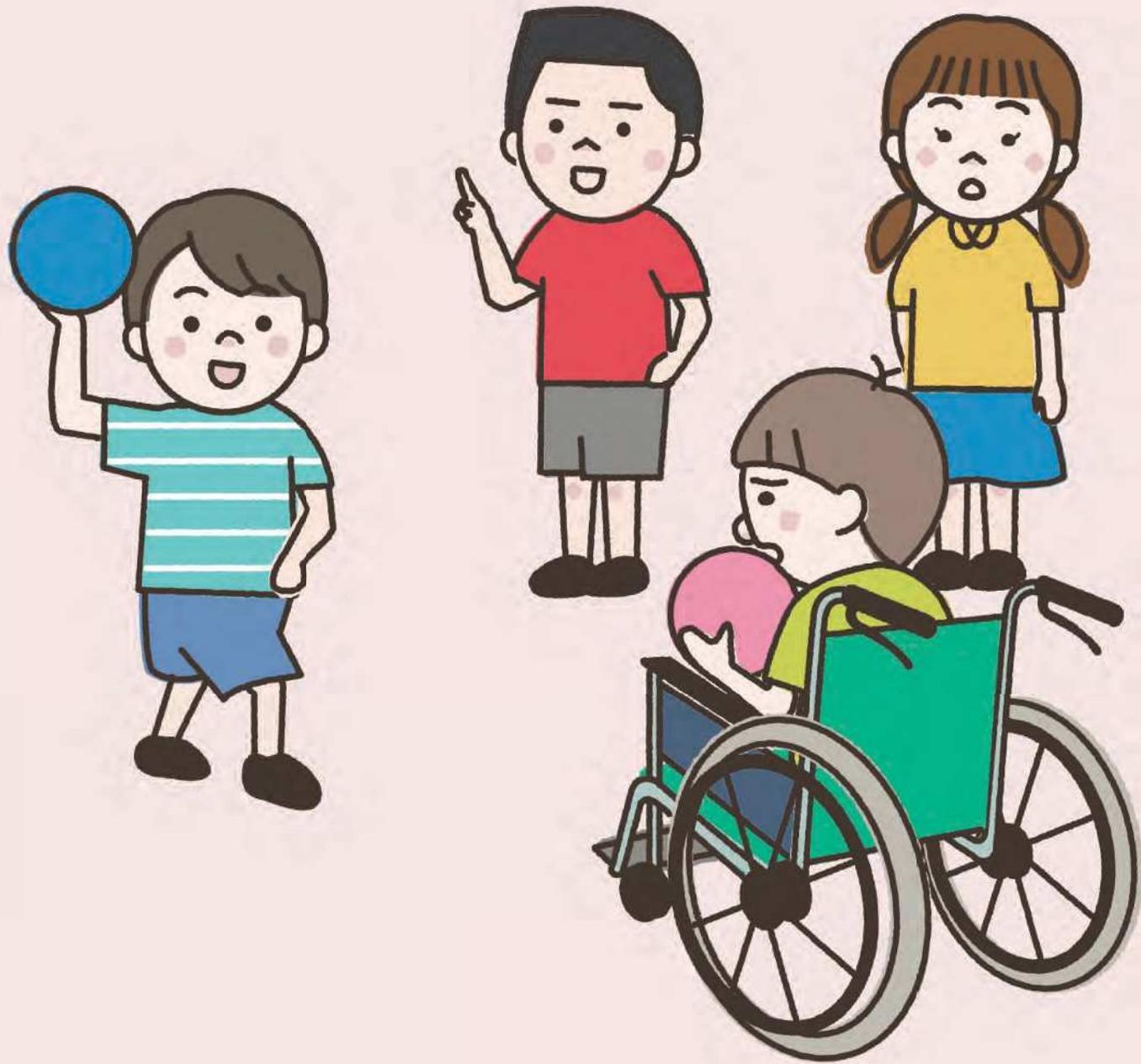
「でも、りんがまじりなら できるよー」

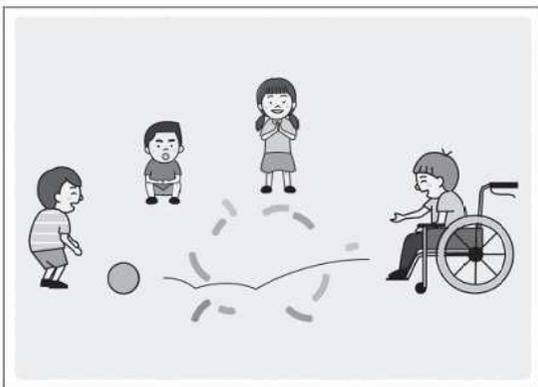
りんくんは そっせりって

えがおに なったんだ。

◆読み手の皆さんへ

Empty rectangular box for reader response.





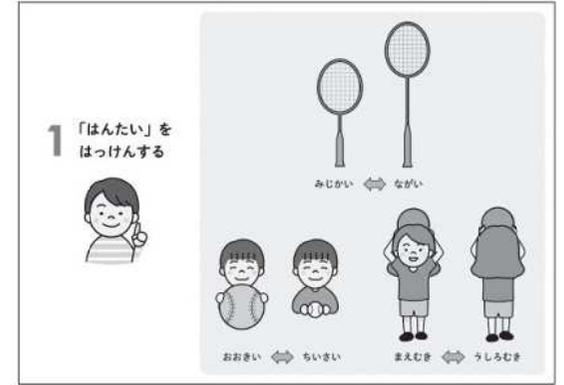
12

「そっだね！ ボールを なげるんじゃないくて
ころがせば みんなで あそべるね」
ぼくが そっいごと みんなも
「じゃあ やってみようー！」って いったんだ。
ころがして あそんだら
とっても たのしい！
みんなが えがおに なったよ。
かえるとき りくくんも みんなも
「おめでとう じつても ワクワクしたよ。
また あそぼうね」って いったんだ。
ひとりひとり みんな ちがいはあるよね。
だけど みんなで ワクワク できることは
かならず あるって ぼくは おもったんだ。

◆読み手の皆さんへ

大きく楽しくわかりやすく、ワクがなくなった瞬間を伝えます。





13

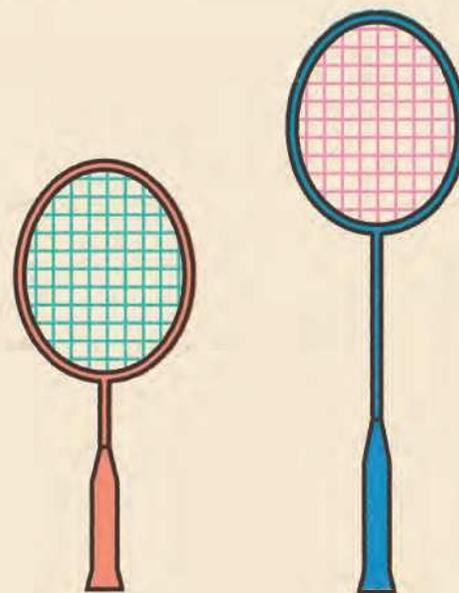
みんなが ワクワクできること
どっやったら みつけられる？
それには 3つの ヒントがあるんだ。
1 「はんたい」を はっけんする
みじかい ↔ ながい
おおきい ↔ ちいさい
まえむき ↔ うしろむき
ながさや おおきさや からだのむき。
いろんなことの 「はんたい」を
はっけんしたら あたらしい
ワクワクが つくれそうだね。

◆読み手の皆さんへ

ワクワクをつくるための3つのヒントの1つめを紹介します。

オープンエアプロジェクトにおいて、誰もが楽しめるプログラムをつくるための基本理念のひとつとして「対称性」があり、これを「はんたい」と言い換えて解説しています。少し難しいかもしれませんが、ここでは「いろいろな方法がある」ということが伝わればOKです。

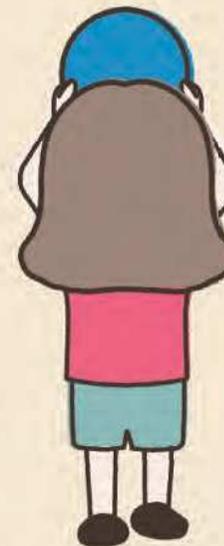
1 「はんたい」を
はっけんする



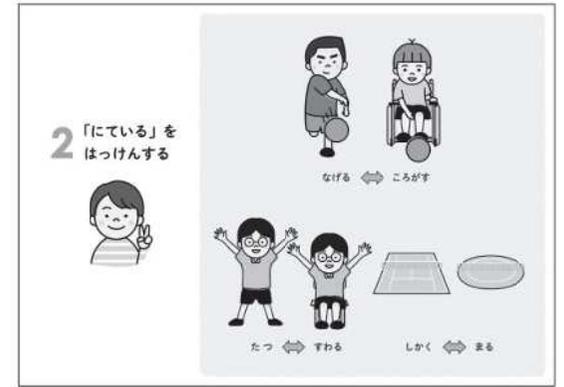
みじかい ⇄ ながい



おおきい ⇄ ちいさい



まえむき ⇄ うしろむき



14

2「にている」を はっけんする

なげる⇄ころがす

たつ⇄すわる

しかく⇄まる

からだの つぶきや あそぶ ばしょ。

「にている」ことを はっけん すれば

あたらしい ワクワクが ひろがるね。

◆読み手の皆さんへ

ワクワクをつくるための3つのヒントの2つめを紹介します。

オープンエアプロジェクトにおいて、誰もが楽しめるプログラムをつくるための基本理念のひとつとして「相似性」があり、これを「にている」と言い換えて解説しています。少し難しいかもしれませんが、ここでは「いろいろな方法がある」ということが伝わればOKです。

2 「にている」を はっけんする



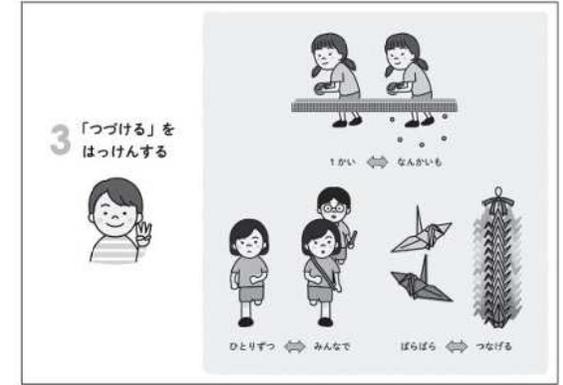
なげる ⇄ ころがす



たつ ⇄ すわる



しかく ⇄ まる



15

3 「つづける」を はっけんする

1 かい ↔ なんかいも

ひとりずつ ↔ みんなで

ぼらぼら ↔ つなげる

ひょうひょうとせ

ぼらぼらなものを くっつけて

「ひびける」じょうを

はっけんするよ

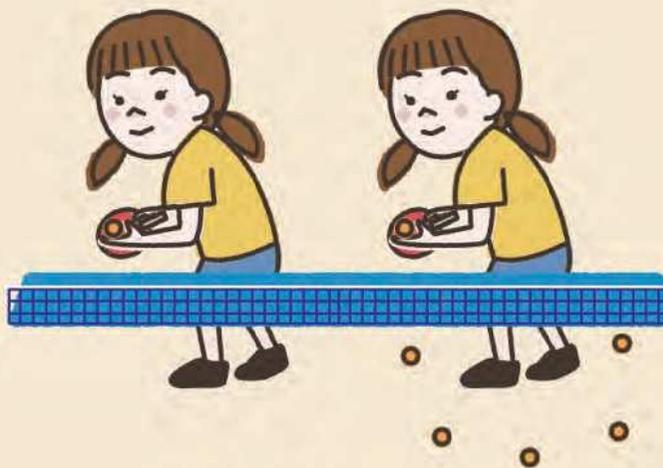
あたりいら ワクワクが つままれるよ。

◆読み手の皆さんへ

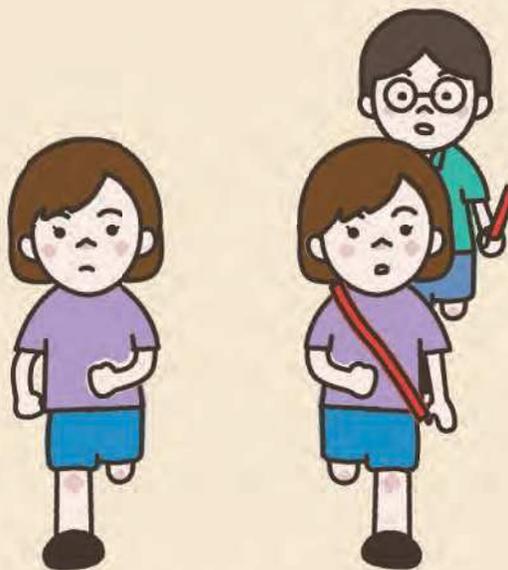
ワクワクをつくるための3つのヒントの3つめを紹介します。

オープンエアプロジェクトにおいて、誰もが楽しめるプログラムをつくるための基本理念のひとつとして「循環性」があり、これを「つづける」と言い換えて解説しています。少し難しいかもしれませんが、ここでは「いろいろな方法がある」ということが伝わればOKです。

3 「つづける」を はっけんする



1 かい ⇄ なんかいも



ひとりずつ ⇄ みんなで



ばらばら ⇄ つなげる

- 1 「はんたい」を はっけんする 
- 2 「にている」を はっけんする 
- 3 「つづける」を はっけんする 

16

さあ みんなで ワクワクを つくろう！

ヒントは

1 「はんたい」を はっけんする

2 「にている」を はっけんする

3 「つづける」を はっけんする

◆読み手の皆さんへ

3つのヒントを、子どもたちと一緒に声を出して読むなど、みんなでもう一度確認しましょう。

オープンエアプロジェクトにおいて、誰もが楽しめるプログラムをつくるための基本理念として「対称性」「相似性」「循環性」があり、これを「はんたい」「にている」「つづける」と言い換えて解説しています。

少し難しいかもしれませんが、ここでは「いろいろな方法がある」ということが伝わればOKです。

1 「はんたい」を はっけんする

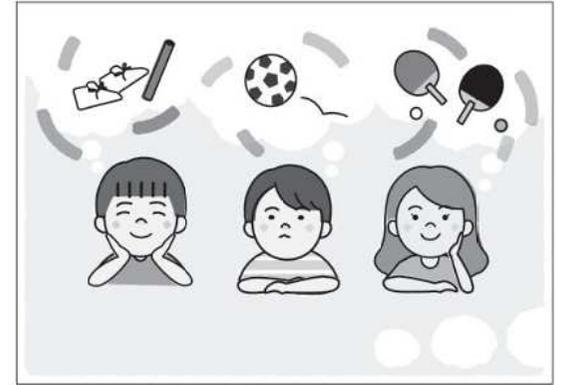


2 「にている」を はっけんする



3 「つづける」を はっけんする





17

きみが すきな あそびや スポーツを
どれか ひとつ おもいうかべて
もっと みんなで ワクワクするには
どうしたらいいか
みんなで いっしょに かんがえてみよう。

◆読み手の皆さんへ

ここで、ふだん遊んでいることを例に出しながら、たとえば目が見えない友達と一緒に遊ぶならどうするのか、みんなでアイデアを出し合います。そのときに、3つのヒントを参考にしていきます。

★実際に、一人が目隠しをしたり、いすに座るなどして障害のある子の役割を担い、ボールなどの道具を使うことで、さらに実践しやすくなります。

「いすから立てない子とボール投げをしたい。どうしよう？」

「じゃあ、みんなもいすに座ったらどうかな？」

★障害のある子を特別扱いして「助けてあげる」のではなく、みんなで「一緒に楽しむ」ことをめざします。

★いいアイデアが出なくても構いません。「何か工夫すれば、一緒に楽しめるんだ」ということに気づけばOKです。





できたかな？

さあ これで きみも

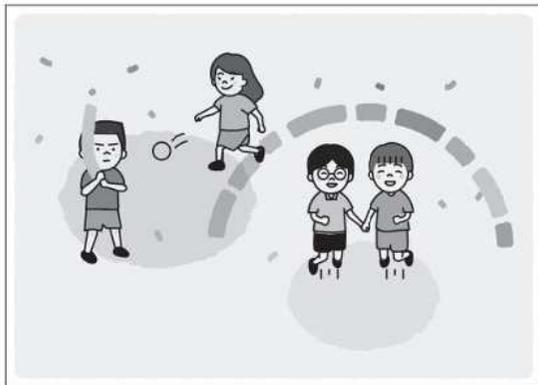
「オープンエアメーカー」だよ！

18

◆読み手の皆さんへ

みんながワクワクした状態で遊んでいる様子です。





19

みんなの あいだの ワクを なくして
ワクワクを つくれるひと。
それが オープンエアメーカー。
がっこうで おうちで いろんなところで
ワクをなくして たくさんの ワクワクを
つくってほしい。

そして オープンエアメーカーの
なかまを ふやしてほしいね！

◆読み手の皆さんへ

ワクのかけらを道具などに使い、「ワクがないから、ワクワクできる」状態が楽しいことを印象づけています。





20

「ワクワクのつくりかた オープンエアメーカーになろう！」

令和2(2020)年12月発行

発行者：川崎市

協力：NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF
障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会
かわさきオープンエアプロジェクト

スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)」

ワクワクがないから、ワクワクできる



かわさき
オープンエア
プロジェクト

「ワクワクのつくりかた」のつかいかた

「知らない」という社会のワクをなくして、
みんなでワクワクするための紙芝居です。

この紙芝居は、「かわさきオープンエアプロジェクト」が作りしました。
「かわさきオープンエアプロジェクト」とは、障害について「知らない」というワクをなくし、
だれもがワクワクできる「オープンエア」な社会を実現するプロジェクトです。

障害者支援に関心はあるけれど、関わる機会がない。機会があっても、どうサポートしたらいいかわからないという人は少なくありません。障害があるのは、人でなくて、社会。そこには「知らない」という障害からくる、「不安」や「誤解」があるのです。

そこで、「知らない」というワクをなくすために、この紙芝居を作りました。たとえば、みんなでスポーツをしたいとき、みんなと同じようにできない人がいたらどうしたらよいか、などの例をあげながら、だれかを「助けてあげる」のではなく、みんなで「一緒に楽しむ」方法を考えていきます。おとなの方もぜひ一緒に、「ワク」をなくして「ワクワク」する時間をお楽しみください。

◆読み手の皆さんへ

カラフルな「ワクワク」の文字、その元となっているのは、実は「ワク」です。全編にわたってこのワクの絵を象徴的に使用し、子どもたちに印象づけていきます。

◎感情をこめなくても大丈夫

ゆっくりと、聞こえやすい大きさの声で読んでください。セリフなどに感情をこめすぎると、かえって子どもたちの集中力をそいでしまうことがあります。子どもたちの想像力にまかせて、普通に話しかけるように読んでください。

◎途中で、「あそびを考える」コーナーがあります。

ボールやラケットなど、ふだん使っているあそび道具をご用意ください。

◎ぜんぶを理解できなくてもOK

大切なことは、障害のことを「知らない」ままにしておくのではなく、「知ろう」とすること。そのきっかけになればOKです。



①

ワクをなくしてワクワクをつくるために、ぜひこの紙芝居をご活用ください！

かわさきオープンエアプロジェクト